

令和7年度 江戸川区立瑞江中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>教育目標                  一、ものごとを正しく深く考え創造力の富んだ人になる（学習）                  一、健康な体で豊かな心情の人になる（心身）                  一、思いやりの心をもち進んで協力する人になる（協調）</p>	<p>目指す学校像                  目指す生徒像                  目指す教師像</p>	<p>【学校像】①生徒が大切にされ、厳しさのなかに温かさや優しさのある指導をする学校②教師と生徒が強い信頼の絆で結ばれている、保護者・地域に信頼される学校③組織的に運営され、教職員個々の持ち味が生かされ、活力のある学校 ④授業時数の確保はもちろん、質の高い授業を元にした授業が展開されている学校 【生徒像】①意欲的に学力向上に努力する生徒②思いやりの気持ちと豊かな心を持ち、ルールを守る生徒③積極的に体力向上に努力する生徒④物事に真摯に取り組み、誠実な生徒 【教師像】①生徒に対する愛情と厳しさをもち、公平に接し、共感的態度で指導に当たる教職員 ②常に授業改善に努め、わかる授業を展開し時代の求める学力を身につけさせる教職員 ③職務能力向上に努め、持ち味を發揮して、学校運営に主体的・組織的に関わる教職員 ④あいさつ・服装を正す・提出期限の遵守など、率先垂範して生徒の手本となる教職員</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果                  学力向上について、本校では昨年度から家庭学習ノートの取組を行っている。家庭の協力もあり学習習慣の定着が図れてきている。昨年度は1、2年生のみの取組であったが、今年度は全学年で実施し、全校体制とする。教員は授業改善についての意識を持っており、ICTの活用や生活の中の身近な題材を活用するなど、「分かる授業」「興味を持てる授業」を皆が目指している。生徒は、学力調査や定期考査でも粘り強く最後まで取り組む姿勢が身に付いてきており、徐々に前年度までに比べて学力の向上が見えている。</p>	<p>課題</p>	<p>体力向上について、「令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活習慣等調査」において、どの学年も結果が低調であった。それを受け、保健体育科の授業では、毎回の授業の導入の際にランニング、補強運動を実施することで基礎体力を身に付けさせたり、各単元の種目にスモールステップで取り組ませ、技能を習得させることで運動の楽しさを感じさせつつ、体力を伸ばせるように取り組んでいる。昨年度も本校は不登校の出現率が非常に高かった。学校に足が遠のいている生徒への支援を充実させるため、校内で不登校コーディネーターを6名選定した。生徒の状況把握、連絡・相談体制の充実を目指して、SC、SSW、不登校巡回教員や区の教育研究所・学習サポート教室などとも連携して対応を充実する。また、エンカレッジルームにおいて、教員による授業を始める。また、第二のエンカレッジルームを設置し、運用を開始する。担任やエンカレッジサポーターとも連携をとって、生徒の状況に合わせて柔軟に対応する。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○進路指導の充実による、学習意欲の涵養と、学習習慣の向上	・生き方指導につながる進路学習の充実 ・家庭学習ノートを用いた、家庭学習への取組	・3年保護者進路説明会参加率80%以上。 ・毎日の家庭学習ノートの提出とチェック	50%		C	進路説明会は10月に実施するため、まだ結果は出ていない。家庭学習ノートは毎日提出とチェックができています。	C	家庭学習ノートは毎日の学習習慣をつけるうえでも大事な取組である。					
	○授業改善による、基礎・基本の確実な習得と、区の事業も活用した補習の充実	・全教員が授業改善に取り組む。 ・学校と民間事業者による放課後学習教室の実施	・全員が年に一回、研究授業を行う ・放課後補習教室への登録率100%	50%		C	研究授業はまだ多くの教員が未実施であるが、年度末までに完了する。放課後補習教室への登録率は100%である。	C	生徒が分かる・楽しい授業を目指してほしい。					
	○ICT機器を活用した授業の実践	・全教員によるデジタル教科書やドリルパークなどのICTの活用	・タブレットを活用する授業の割合80%	80%		B	多くの授業で活用されているが、教科や教員によって差がある。	B	タブレットを効果的に活用してほしい。					
	○読書科の更なる充実	・行事の事前学習の中での、探究的な学習への取組	各学年、年間1度は探究的な学習を計画的に実施	100%		A	行事の事前学習を通して、探究的な学習に取り組んでいる。	A	将来に生きる力を身に付けていってほしい。					
体力向上	○運動能力や基礎体力向上に向けての取組強化	・新体力テストの測定と結果の活用	新体力テストの体力合計点で都の平均以上	50%		C	当日の生徒の取り組みの姿勢は大変立派だった。	C	体力が落ちてきていると聞くので少し心配である。					
		・体育の授業の導入における、ランニング、準備運動、補強運動の実施	毎回の授業で実施	100%		A	毎回の授業でしっかり実施できている。	A	学校はぜひ体力向上を目指していってほしい。					
教育の推進 共社会の 実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援教室巡回指導教員との連携や特別支援教室専門員の活用	・月1回程度、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	100%		A	月1回以上の打ち合わせができています。	A	全ての子が落ち着いて生活できる学校になってほしい。					
	○配慮の必要な生徒に対する教職員の理解力の向上	・配慮の必要な生徒に関する情報交換についての校内研修の実施	・4月に校内研修会で生徒の情報交換会を実施	100%		A	予定通り実施し、生徒理解につなげられた。	A	4月にそういう研修を行うのは大切だと思う。					
不登校・いじめ対応の充実	○不登校生徒の校内での居場所づくりの確保	・エンカレッジルームで不登校やその傾向のある生徒に向けた支援の実施	・毎日エンカレッジルームで教員による授業を実施	100%		A	エンカレッジルームで毎日3～5校時で授業を行われ、生徒も前向きに授業に取り組んでいる。	A	先生たちは大変だと思うが、大変ありがたい。					
	○Ohyaer-QUの活用	・QUテストの生徒の実態把握に基づいた指導の推進・面談などでの活用	・学級生活満足群の人数割合が、全学年平均で50%以上	50%		C	今年度はQUテストは実施せず、L-gateを活用して、毎日の生徒の心身の様子を見取っている。	C	毎日子供の様子を気にかけてくれるのはありがたい。					
	○生活アンケートの活用	・アンケート結果を活用し、早期発見・早期解決を实践	・訴えのあったいじめは3カ月以内に100%解消	100%		A	いじめの訴えがあった時は早期に生活指導部を中心に組織的に対応を行い、解消ができています。	A	子ども達への心の教育が必要だと感じる。					

学校(園)の実現 地域社会に開かれた	○学校公開の実施・充実	・年3回の土曜授業における学校公開の実施	保護者の参加率50%以上	80%		B	保護者の参加率は20%程度なので、2学期・3学期は前日にテトルでも保護者に伝える。	B	もう少し参加できると良い。平日の学校公開は行けないのかもしれない。					
	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの更新	・授業日の更新を90%以上	100%		B	給食メニューの様子や授業の様子など、授業日は毎日更新できている。	B	楽しみにして見ている。学校の様子が分かるのでありがたい。					
	○学校だよりの充実	・学校だよりの発行	・年10回以上発行	50%		C	9月現在、順調に発行できている。	C	学校の様子がよく分かるのでありがたい。					
教育の展開 特色ある	○ALTの効果的な活用および英検の充実	・ALTを授業だけでなく、休み時間や放課後にも活用し、生徒に日常で英語に触れさせる。	・英語検定3級以上の取得率50%以上	50%		C	3年生の英検3級の取得率は30%程度となっている。今後の受検を促していく。	C	しっかり英語を話せる生徒を育ててほしい。					
	○ボランティア活動の推進	・ボランティア活動の積極的な紹介	・全校生徒の80%がボランティア活動に参加	50%		C	自転車盗0運動には多くの生徒が参加予定だったが、荒天で中止になり残念であった。	C	ボランティア精神や奉仕の精神をもつことはとても大切なので、ぜひ推進してほしい。					
	○働き方改革の推進	・会議の精選 ・月1回の定時退勤日の設定	・教員の在校時間を昨年度比10%減	55%		C	・昨年度と今年度で9月を比較すると5.5%減だった。	C	先生方が本当に大変であることが分かる。					